

# 石川県土木部ら参加

利水社（金沢市、市山勉社長）は5月、石川県羽咋市の滝港で音響測深機器であるNON RBIT社製マルチビームソナー「WING HEAD i77h」のデモンストレーションを行い、石川県土木部や農林水産部、地元

建設業者らが従来の浅測量では収集できない海底データに関心を寄せていた。同測深機は、音響ビームを扇状（最大210度、1024本）に発射し、面的に測深でき、効率的、広範囲に未測線のない高密度のデータ取得が可能。最大測深能力は約300mで近海海域はほぼカバーできるほか、ダム湖や河川の土砂堆積、護岸点検の調査、砂浜侵食構造の解明などに寄与でき、事前防災などに期待される。デモ当日は石川県土



ラジオコンボートから送られてくるデータに見入る参加者①、滝港内でデータ収集したマルチビームソナーを搭載したラジオコンボート

## 利水社 マルチビームソナーでデモ 羽咋市滝港の海底データを収集

参加者「ダム堆砂、ため池管理にも有効」

木部河川課、中能登土木総合事務所、羽咋土木事務所、羽咋農林事務所、建設会社が見守る中、ラジオコンボートの説明後、まず、同港浅瀬で試運転。ボートに搭載されたソナーから水深2〜3mの海底の様子リアルタイムで送られ、関係者はモニターに映る詳細な海底データに驚いていた。午後は水深8〜9mの防波堤周辺を調査した。

参加者からは、同機を活用すれば、ダム堤体近くまで接近でき、堆砂状況を把握できるとしたほか、通常、潜水士に頼るしかない岸壁の腐食調査に有効といった意見や、老朽化したため池管理で調査用船舶は現地に運ぶことは困難だが、今回のラジオコンボートであ



幕張メッセの出展ブース(写真提供：利水社)

## 幕張メッセでも関心高く

ば手軽に対応できるなどの意見があった。5月5日に発生した能登地方を震源とする地震の際には、今回の機器を活用した港湾・漁港での調査の要望があったほか、同月24日〜26日に千葉市で開催された「CSPIRE XPO 第5回建設・測量生産性向上展」に出展した際には、300枚用意したリーフレットがすべて無くなり、来場したコンサルや測量業者などから同機の性能や用途の質問が多数寄せられ、導入した機器への関心の高さを示していた。